

箱根火山の状況

連日箱根火山・大涌谷に関する報道がメディアを賑わしています。箱根がまさに活火山だという事を改めて認識された方も多いのではないかと推察します。

箱根火山は3000年前に大涌谷を作った水蒸気爆発が最後の噴火と長年思われていました。しかし近年の調査により、およそ2800年前、2000年前、さらに12世紀後半から13世紀頃にも水蒸気爆発（3回）があった可能性が高いと現在では考えられています。

最近では群発地震活動が2001, 2006, 2008-9, 2011, 2013年に発生しています。2011年のものは東日本大震災の直後の全国の火山の活動活発化と同時に発生したもので、一時は大涌谷で先が見えないほど水蒸気の噴出が多くなった出来事でした。それ以外では、2001年にかなり活発な群発地震活動があり、大涌谷の噴気も今回以上に大きくなった事がありました（下の写真）。

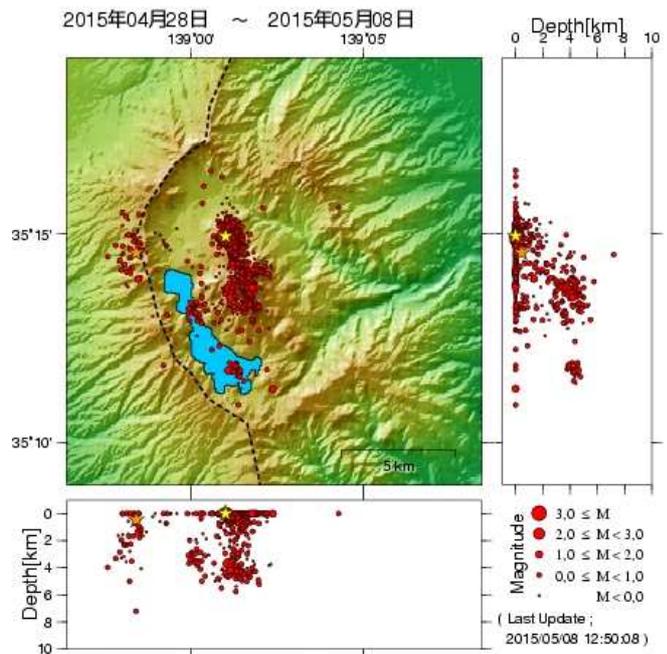


今回、大涌谷に立ち入り禁止措置が取られたのは、明らかに昨年の御嶽火山の出来事が影響しています。また次の図は温泉地学研究所のウェブサイトで公開されている過去10日間の震源分布です。

http://www.onken.odawara.kanagawa.jp/files/dat_auto/eq_onken_l10.jpg

ほとんどの地震は大涌谷を中心とした地域で発生していますが、芦ノ湖の北西側の湖尻峠近傍での地震は極めて珍しいもので、こちらも注視する必要があるかもしれません。少なくとも最近25年間では初めてと言っていい場所で地震が発生しています。

今回の箱根火山の規制は観光の振興と安全確保という相反する問題で、裏面では相当厳しい交渉があった模様です。日本が極めて風光明媚で、かつ温泉なども楽しめるのはまさに火山の恵みなのですが、時にはこのような出来事も起こるという認識を常に持つ事が重要だと思います。この箱根の規制は相当長期間続くと思われます。



日本全国の（特に海域を中心とした）地下天気図

今年2月末に引き続き、日本列島全域の地下天気図をお示しします。この解析は1999年以降の15年間のデータを基にした、特に海域の地震活動を評価するための長期間の解析です。今回は同時に今年の2月20日時点のものと、昨年11月末のもの3枚を並べて掲載しました。現時点で一番地震発生の可能性の高いのが、九州南方沖です。11月末に存在していた地震活動静穏化領域（青い領域）が消えています。日本海側の秋田県沖を中心とした静穏化領域はまだ継続中であり、まだ地震発生の可能性は低いと考えています。

